

組織目標評価報告書（令和 2 年度）

6-1

部局名： 医学部医学科

部局長名： 浅沼幹人

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 入試の実施状況:</p> <p>①入試倍率3.0~4.0倍</p> <p>②多様な入学者選抜の実施と新入学者選抜制度に向けた対応(医学科IR室による入試IR含む)</p> <p>2. 教育の質保証に関する実施体制:</p> <p>①新任教員FD、夏のFDを実施する。</p> <p>②教育企画委員会を開催し、実際の教育現場の課題を検討する。</p> <p>③教務委員会に加え、教育カリキュラム・プログラムの企画立案組織「カリキュラム委員会」、外部委員も含めた評価組織「プログラム評価委員会」、IR組織「医学科IR室」によるPDCAサイクルの実質稼働。</p> <p>④教育カリキュラムの企画立案「カリキュラム委員会」、評価組織「プログラム評価委員会」の学生委員からの意見も踏まえたカリキュラム策定。</p> <p>3. 教育方法・内容:</p> <p>①海外大学等との学生交流を拡充し、国際化プログラムを推進する。(新型コロナウイルス感染症拡大による海外交流中止の解除がなされた場合)</p> <p>②アクティブラーニング、英語プログラム、大学院教育接続リサーチマインド醸成プログラム(Pre-ART)の継続</p> <p>③Moodle、ICTを活用した遠隔講義・実習システム・時間外学習システムの導入と推進。(新型コロナウイルス感染症拡大による遠隔授業に対応)</p> <p>4. 教育の成果:</p> <p>①学生の履修、単位取得状況、厚生補導について、AA担任制ならびに学年主任制を活用し指導を図る。</p> <p>②医師国家試験合格率(新卒)全国平均+1%以上を目指す。</p>	<p>1①</p> <p>2②</p> <p>3③[3-1]</p> <p>5①</p> <p>6②</p> <p>15①</p> <p>16②</p> <p>17①</p> <p>24①</p> <p>25②</p> <p>60②</p>	<p>1. 入試の実施状況</p> <p>②推薦(地域枠)、国際バカロレア入試、学士編入学と多様な入学者選抜を実施している。</p> <p>・医学科IR室で「学修アウトカムに影響する因子の調査」の一環として入試形態・成績と入学後成績との関連について調査し、それに基づき、より医学科教育に適合できる優秀な人材確保に向け入試委員会で一般入試(前期日程)の1次・2次科目配点比率のR4年度からの変更案を策定した。</p> <p>2. 教育の質保証に関する実施体制</p> <p>①夏のFDは医療系の医学部・歯学部・薬学部合同FDとして新型コロナウイルス感染症対応の教育法について7月10日に実施した。③「医学科教務委員会」、「カリキュラム委員会」、「プログラム評価委員会」、「医学科IR室」によるPDCAサイクルの実質稼働ができた。</p> <p>3. 教育方法・内容</p> <p>・医学研究インターシップの派遣先の海外各機関、派遣元(英国サリー大学)とはポストコロナを見据えて交流プログラムが再開できるよう連携・連絡は継続している。</p> <p>・医学科・保健学科合同の多職種連携可能プログラム「プロフェッショナルリズム・行動科学」「チーム医療論」を設定し、実質稼働した。既存科目の共有のため人数確保が難しいなどの課題は残る。</p> <p>・医療系、医学科主体で令和2年度第3次補正予算「感染症医療人材養成事業」に応募し採択された。</p> <p>4. 教育の成果</p> <p>①昨年度は学生の不祥事が続き、学生指導のあり方の再構築(学生指導における担任制や厚生補導の実質化)が求められていた。今年度は学生生活の諸問題に対応する「厚生補導委員会」において担任制ならびに持ち上がり学年主任制を実質稼働させ、個別面談を推進し、生活指導を細やかに行った。また、9月1日に厚生補導委員会と教育企画委員会合同の教員FD/SDを行った。</p> <p>②昨年度は医師国家試験合格率(新卒)が全国平均以下であったことを受けて、教務委員による模試・卒試成績不良者への個別面談指導の強化を図り、今年度第115回医師国家試験合格率は、全体で92.7%(全国平均91.4%)、新卒で98.2%(全国平均94.4%)11位/80校で新卒全国平均+1%以上を達成できた。</p>
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>医歯薬学総合研究科(医学系)に統合</p>		
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>・地域での健康公開講座などを地域の取り組みに合わせて実施する。(新型コロナウイルス感染症拡大による移動制限、イベント、交流制限によっては形式を検討する)</p> <p>・高大連携事業を積極的に推進する。(新型コロナウイルス感染症拡大による移動制限、イベント、交流制限によっては形式を検討する)</p> <p>・海外大学との協定、国際交流プログラムを引き続き拡充する。</p> <p>(新型コロナウイルス感染症拡大による海外交流中止の解除がなされた場合)</p>	<p>47②</p> <p>50①</p> <p>52②</p>	<p>・健康フェスタin Okayama 2020(山陽新聞社と共催)は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、健康フェスタin Okayama 2021(R3年5月)は市民公開セミナーを山陽新聞誌上で開催することを企画した。</p> <p>・高校からの大学訪問の受け入れおよび出前講義を行った。</p> <p>・6大学連合のマンマーマー医学教育普及促進プロジェクト(PEME)後継プロジェクト準備会議を11月5日に主管校として開催した。</p> <p>・オタゴ大学保健学部局との国際交流協定(部局間協定)締結、ソルボンヌ大学、グルノーブル工科大学との国際交流協定(大学間協定)更新など、ポストコロナの交流に向けた活動は行った。一部の交流協定締結は新型コロナウイルス感染症拡大のために延期している。</p>
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 施設環境整備:</p> <p>①教育研究スペースの不足、狭隘化に対する調査と代替スペース確保に向けた対応を医歯薬学総合研究科とともに行う。</p> <p>②医療系大学間共用試験の実施に向けた環境整備</p> <p>2. コンプライアンス研修の徹底:</p> <p>3. 管理運営業務の効率化:</p> <p>会議の時間の短縮およびメール会議等による簡素化により管理運営業務の効率化に努める。</p>	<p>87②</p> <p>90②</p> <p>93②</p>	<p>1. 施設環境整備:</p> <p>①教育研究スペースの不足、狭隘化に対応すべく150周年記念事業として整備していた鹿田会館(旧生化学棟)の新講堂を竣工し、講演・会議場としての活用を開始した。さらに、老朽施設使用停止などを見据えてスペースを確保すべく、鹿田会館の未改修部分の改修計画をたてた(R3改修予定)。</p> <p>②医療系大学間共用試験、特に臨床研修後post-CC OSCEの本年度正式実施に向けた環境整備と評価者・SP(模擬患者)講習会(8月)を開催し、新型コロナウイルス感染症対策をとりつつ、9月9日、11日の2日に分けて試験を実施した。</p> <p>2. コンプライアンス研修の徹底:</p> <p>コンプライアンス研修の事前周知を徹底した。CISOとの情報セキュリティに関する面談に基づき情報セキュリティ管理責任者としてサーバー脆弱性への対応を行い、12月の学外からの学内メールサーバーへのアクセス方法変更に際しては具体的な判りやすい手順書を独自に作成して医療系構成員に周知した。</p> <p>3. 管理運営業務:</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応のために、医療系(医歯薬保)部局と大学病院の協働連絡体制を構築し、鹿田キャンパスとして様々な対策、規制、支援を行っている。入構規制時、患者発生時には、特に臨床実習生の代替学修、健康管理に努めた。医療系キャンパス独自の厳しい規制によって教育研究活動に支障をきたしている医療系学生への修学・奨学支援を目的に、「新型コロナウイルス感染(COVID-19)感染防止等に係る医療系学生学修・奨学事業」を立ち上げ寄付を募り、医療系(医歯薬保)部局長が実行委員会を組織し、学生への経済支援、感染対策消耗品購入、PCR検査補助を行った。</p>